

柳忠熙『朝鮮の近代と尹致昊：東アジアの知識人エトスの変容と啓蒙のエクリチュール』（東京大学出版会、2018 年）

本の概要：

本書は、尹致昊（ユン・チホ、1865～1945）の人生および思想の形成とその変化を、近代東アジアの知識人エトスの形成と変容の一例として示したものであり、朝鮮の近代、ひいては東アジアの近代を再考したものである。

本書では、近代への転換期における東アジアの知識人エトスに注目し、近代東アジアにおける知識人の〈思想〉、〈構想・実践〉、その〈変容〉を問題とし、近代東アジアの知識人の問題を検討した。近代東アジアの知識人が持つエトスは、漢学的素養および儒学的思想に基づいた士大夫層の特性と、自国語リテラシーの素養および啓蒙思想に基づいた市民層の特性が混在するものであり、両者が互いに連携し拮抗するなかで形成し変容していくものである。尹致昊の思想の変化、朝鮮知識人の海外経験、啓蒙のエクリチュールに関する検討を通じて、尹致昊の人生と思想は、当時の東アジアにおけるトランスナショナルな文化・政治的状况によって形成され変容していたことを明らかにした。また、尹致昊の思想の変化においては、その東アジアのトランスナショナルリティという文脈に基づいた〈東アジア／朝鮮の近代〉のダイナミズムがその背景となっていたことを確認し、朝鮮知識人の一例を通じて近代東アジアの知識人エトスの特徴とその変容についての理解を示した。

著者略歴：

1980 年韓国大邱市生まれ。2006 年成均館大学校国語国文学科及び比較文化学科卒業。2008 年成均館大学校大学院比較文化協同課程碩士（修士）課程修了。2011 年東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了。2016 年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。学術博士。東京大学東洋文化研究所、東京大学多文化共生・統合人間学（IHS）プログラム特任研究員を経て、現在福岡大学人文学部講師。主要な業績は、『近代語の誕生と漢文：漢文脈と近代日本』（共訳、현실문화、2010 年、朝鮮語）、「近代学術史における高橋亨の朝鮮文学論の含意：高橋亨の「朝鮮文学研究—朝鮮の小説」（1932）を中心に」『일본문학연구』第 42 輯（共著、2012 年、朝鮮語）、『検閲の帝国：文化の統制と再生産』（共訳、푸른역사、2016 年、朝鮮語）など。

[関連 URL] <http://www.utp.or.jp/book/b375469.html>